

# 「農福商工連携」で、誰ひとり取り残さない居場所をつくる 株式会社ココトモファーム（犬山市）

## 事業者概要

- 所在地：犬山市大字犬山字上り屋 6-11
- 代表取締役：齋藤秀一
- 設立年：2019年9月
- 経営規模：水稲 12.3ha
- 売上高：約5億6千万円
- 雇用者数：常時雇用者数 31名、臨時雇用者数 119名



## 取組概要

- 【生産（1次）】れんげ農法による特別栽培米を生産。荒廃農地を活用し、稲作文化と地域景観を保全。
- 【加工（2次）】自家製の生米粉を原料とする米粉パウムクーヘンを自社加工施設で製造。
- 【販売（3次）】直営店及びカフェでの販売。インターネット通販やふるさと納税の返礼品。手話接客を行うサイニングストアでは、聴覚障害者が主体的に店舗運営を行い、責任者も輩出。

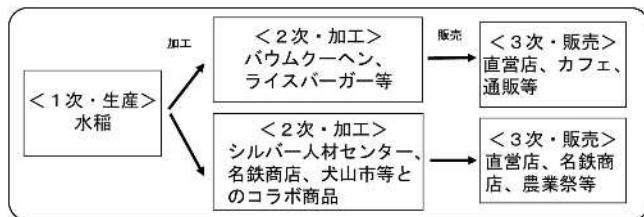
## 取組までの経緯

ココトモファームの活動は、障がい者の居場所づくりに向き合うことから始まった。地域の農地を活用して農業と福祉を結び付け、障がい者の働きがいと地域共生の仕組みを構築。れんげ農法による特別栽培米の生産や地域イベントへの参画を進め、農業体験や直営店を通じて交流人口も拡大。農業・地域・福祉をつなぐ基盤を築きながら事業へと発展している。

## 取組の特徴、強み

ココトモファームの強みは、農業・加工・販売を自社一貫で行うことで、多様な工程を生かした“誰ひとり取り残さない”働く場を創出できる点にある。自社栽培米を使った100%米粉スイーツなど地域資源を活かした商品づくりは独自性が高く、農業・福祉・商工を結び「農福商工連携」として評価されている。さらに、地域企業・行政・観光地との協働により、商品と働く場の両面で地域に貢献している。

## ビジネスモデル ・連携図



## 取組の課題

- 多くの農地が高齢化により耕作放棄されつつある、地域の稲作文化が継承されにくい。
- 障がい者の働く場が限定され、社会参加の機会が乏しい。
- 農村に外から訪れる人が少なく、地域の魅力が発信されにくい。

## 課題解決の方法

- 荒廃農地を整備し、れんげ農法など環境に優しい特別栽培を導入、地域ブランド米としての価値を高め、経済的に持続可能な稲作に再生。
- 就労継続支援B型事業所「ココトモワークス」で安心して働ける環境を整備、農業・加工・販売・接客など多工程の職域をつくり、多様な役割を提供。
- 農業体験・収穫体験・直営店・カフェにより交流人口を増加、観光・企業・学校との連携強化で地域の発信力を向上。



## 取組の効果

- 売上高：  
約3.2千万円(2020年)→約5.6億円(2024年)
- 雇用者数：22名(2020年)→150名(2024年)
- 生産量：米約30t(2020年)→約40t(2024年)

## 活用した支援策

- 経営体育成支援事業(2020年)
- 農山漁村発イノベーションサポート事業(2020年～2024年)
- 犬山市荒廃農地等利活用促進事業(2022年)

## 今後の展望

- 【短期】観光導線との連携強化。犬山城下町に饅と釜めしの店舗をオープンし、犬山ならではの食体験の発信をすることで、地域と社会に新しい価値を創造する。
- 【長期】さまざまな体験から社会をつなぐ、持続可能な共生モデルの創造に取り組む。

## 最近の受賞歴

- 2022年11月 第9回「ディスカバー農村漁村（むら）の宝」「コミュニティ・地産地消部門」選定
- 2024年11月 「ノウフク・アワード2024」「地域を耕す」部門 準グランプリ
- 2025年11月 「ノウフク・アワード2025」グランプリ（最優秀賞）

## 取組者のコメント

私たちは、「誰ひとり取り残さない居場所をつくりたい」という想いを原点に、地域の農地や伝統、そこで暮らす人々の力を生かしながら、農業・福祉・商工をつないできました。これからも“誰かの幸せが、誰かの役割になる”仕組みを育て、犬山から全国へ、共に支え合う社会のモデルを広げていきたいと考えています。

